

広島大学における教員の採用最低基準（数学・情報学）

- ・基準は、「数学」と「情報学」で別に定める。
- ・研究業績の指標は、主に「G-index」を用いる。

【数学】

指標：M, R, G をそれぞれ Mathematical Reviews® (MR), ResearcherID(Web of Science), Google Scholar を用いて算出した G-index の数値とし、A をそれら 3 つの数値の最大値とする。また、X を採用時点で出版(掲載確定を含む)された論文数とする。Y をテニユア審査時点までに出版(掲載確定を含む)された論文数とおく。

なお、准教授の場合、採用時にテニユア採用(すなわち採用時点で定年までの無期雇用)とする場合は、准教授のテニユア審査基準を満たす必要がある。ただし、対象者が若手教員の場合は、 $X \geq 10$ を満たすことのみを基準とする。

ここで、「若手教員」とは学位取得後の研究年数が 13 年以下の教員と定める。ただし、次の場合は上記研究年数には数えない。

- ・公的記録に残る病欠期間がある場合
- ・出産、育児のため研究から離れている、もしくは過去に離れた期間が公的にある場合(男女を問わない)

なお、研究年数における上記の除外期間の有無については確認の必要が生じたときのみ行う。

(1)新規採用のための最低基準

指 標	教授	准教授(若手ではない)	講師(若手ではない)	助教(若手ではない)
学位(着任時)	博士号保持	博士号保持	博士号保持	博士号については問わない
研究業績	$A \geq 7$	$A \geq 4$	$A \geq 2$	$A \geq 2$

指 標	准教授(若手)	講師(若手)	助教(若手)
学位(着任時)	博士号保持	博士号保持	博士号については問わない
研究業績	$X \geq 5$	$X \geq 3$	$X \geq 2$

(2)テニユア審査のための最低基準

○テニユアトラック期間以前の実績を含む全実績(テニユア審査時)

指 標	教授(准教授から)	准教授(若手ではない)(准教授, 講師から)	准教授(若手ではない)(助教から)	講師(若手ではない)(講師から)	講師(若手ではない)(助教から)
期 間	7 年	7 年	5 年	7 年	5 年
学位(テニユア教員着任時)	博士号保持	博士号保持	博士号保持	博士号保持	博士号保持
研究業績	$A \geq 7$	$A \geq 5$	$A \geq 5$	$A \geq 3$	$A \geq 3$

指 標	准教授(若手)(准教授, 講師から)	准教授(若手)(助教から)	講師(若手)(講師から)	講師(若手)(助教から)
-----	--------------------	---------------	--------------	--------------

期 間	7 年	5 年	7 年	5 年
学位(テニユア 教員着任時)	博士号保持	博士号保持	博士号保持	博士号保持
研究業績	$Y \geq 8$	$Y \geq 6$	$Y \geq 6$	$Y \geq (3 \text{ と } X \text{ のうち小さい方}) + 2$

○テニユアトラック期間の全実績(テニユア審査時)
設定なし。

ただし、テニユア期間と若手教員期間との関係、また、研究年数に数えない期間が生じた場合の扱いについては次で定める。

1. テニユア期間のうち、若手教員ではない期間がテニユア期間の 2/3 以上ある場合は通常の教員に対するテニユア審査基準を適用する。
2. テニユア期間のうち、若手教員でない期間がテニユア期間の 2/3 未満の場合、審査時に若手教員でなくても、准教授、講師、助教の審査の場合は若手教員に対する基準を適用する。
3. テニユアトラック期間中に研究年数に数えない期間が生じた場合、その期間はテニユアトラック期間には算定しない。

【情報学】

(1)新規採用のための最低基準

G-index 及び SCI 等論文数を採用する。G-index の計算には、SCOPUS, Web of Science 及び Google Scholar(記述言語は問わない)を参照し、高い方を採用する。

指 標		教授	准教授	講師	助教
学位(着任時)		博士号保持	博士号保持	博士号保持	博士号保持
G-index	理系	一般教員	$G \geq 7$	$G \geq 5$	$G \geq 3$
		業務系教員	$G \geq 5$	$G \geq 3$	$G \geq 3$
	文系	一般教員	$G \geq 3$	$G \geq 2$	$G \geq 1$
		業務系教員	$G \geq 2$	$G \geq 1$	$G \geq 1$
SCI 等論文数	全範囲				1 本以上

(*)SCI 等論文とは、Scientific Journal Rankings (SJR), Journal Impact Factor (JIF)に含まれる ジャーナル及びプロシーディングスに掲載又は掲載が確定した論文で、筆頭著者もしくは責任著者の論文に限る。

Internationally applicable(国際適用性)を満たす基準として、Scientific Journal Rankings (SJR), Journal Impact Factor (JIF)に含まれるジャーナル及びプロシーディングスに掲載又は掲載が確定した論文数を独立に考慮する。ただし、筆頭著者もしくは責任著者の論文に限る。なお、掲載されてまだ時間が十分たっていない、もしくは、掲載は決定しているが、出版準備中で、明らかに参照数が見込まない場合等を想定し、論文数の基準に到達していれば、IF が概ね 3.0 以上の高い論文が存在する場合には、G-index の基準を満足しなくても、G-index の最低基準を満たすものとする。

指 標	教授	准教授	講師	助教
学位(着任時)	博士号保持	博士号保持	博士号保持	博士号保持

論文数(特定条件)	理系	一般教員	7以上	5以上	3以上	2以上
		業務系教員	5以上	3以上	3以上	2以上
	文系	一般教員	3以上	2以上	1以上	1以上
		業務系教員	2以上	1以上	1以上	1以上

(2) テニユア審査のための最低基準

G-index を採用する。G-index の計算には、SCOPUS, Web of Science 及び Google Scholar(記述言語は問わない)を参照し、高い方を採用する。

○テニユアトラック期間以前の実績を含む全実績(テニユア審査時)

指 標		教授(准教授から)	准教授(准教授から)	准教授(講師から)	准教授(助教から)	講師(講師から)	講師(助教から)
期 間		7年	7年	7年	5年	7年	5年
G-index	理系	一般教員	$G \geq 14$	$G \geq 10$	$G \geq 10$	$G \geq 10$	$G \geq 6$
		業務系教員	$G \geq 10$	$G \geq 6$	$G \geq 6$	$G \geq 6$	$G \geq 4$
	文系	一般教員	$G \geq 6$	$G \geq 4$	$G \geq 4$	$G \geq 4$	$G \geq 2$
		業務系教員	$G \geq 4$	$G \geq 2$	$G \geq 2$	$G \geq 2$	$G \geq 2$

○テニユアトラック期間の全実績(テニユア審査時)

設定なし。

Internationally applicable(国際適用性)を満たす基準として、Scientific Journal Rankings (SJR), Journal Impact Factor (JIF)に含まれるジャーナル及びプロシーディングスに掲載又は掲載が確定した論文数を独立に考慮する。ただし、筆頭著者もしくは責任著者の論文に限る。なお、掲載されてまだ時間が十分たっていない、もしくは、掲載は決定しているが、出版準備中で、明らかに参照数が見込まない場合等を想定し、論文数の基準に到達していれば、IF が概ね 3.0 以上の高い論文が存在する場合には、G-index の基準を満足しなくても、G-index の最低基準を満たすものとする。

○テニユアトラック期間以前の実績を含む全実績(テニユア審査時)

指 標		教授(准教授から)	准教授(准教授から)	准教授(講師から)	准教授(助教から)	講師(講師から)	講師(助教から)
期 間		7年	7年	7年	5年	7年	5年
論文数(特定要件)	理系	一般教員	14以上	10以上	10以上	10以上	6以上
		業務系教員	10以上	6以上	6以上	6以上	6以上
	文系	一般教員	6以上	4以上	4以上	4以上	2以上
		業務系教員	4以上	2以上	2以上	2以上	2以上

○テニユアトラック期間の全実績(テニユア審査時)

設定なし。

(3) 補足

- ・本基準分野における、「理系」及び「文系」の別は、取得学位が博士(情報学), 博士(工学), 博士(理学), あるいは名称は多少異なるが、これらに準じる場合、あるいは、例外的に医学・歯学・薬学・

農学に関連する場合には理系に分類する。それ以外は文系に分類する。

- ・情報メディア教育研究センター配属教員については、本基準適用教員とみなし、「業務系教員」として分類する。それ以外は「一般教員」に分類する。